

第1学年 生活科学学習指導案

1. 単元名「みんな大すき」

2. こんな子どもだから

- 子どもたちは、1学期は学校生活に関心をもち、意欲的に学校探検を行った。学校生活に慣れてくるとともに、学習だけでなく、当番や係活動等でも意欲的に活動している。【関心・意欲・態度】
- 子どもたちは、どうしたら朝顔の花が咲くか1年生なりに考えたり、朝顔が成長していく様子を書いたり発表したりすることができた。水やりを自分で頑張ったという反面、起床を家族に手伝ってもらっている子も多い。さらに、家族に言われてお手伝いはするものの、自分で考えて自分ができることをしようとするまでには至っていない。【思考・表現】
- 家族に関しては、あまりに身近過ぎて、一緒にいて当たり前前の存在であるために、意識したことがなく、家族がかけがえのない大切なものであることに気付いていない。そのため、自分自身がその家族を構成する大切な一員であり、家族における役割があるということへの自覚も不十分である。【気付き】

3. こんな教材で

① 本質性

本単元は学習指導要領の内容の(2)を具現化した単元である。社会の価値観の多様化に伴って、家族の構成や暮らし方はそれぞれ異なっているが、どの家族にも心のつながりがあり、互いに支え合っているよさがある。子どもにとって地域の最小単位としての家族をとりあげ、家族のよさを実感し、よき生活者としての態度を育成する上で価値がある。

② 課題性

身近な存在である家族を見つめ、家族のために行う家庭の仕事を、試行錯誤しながら、努力して繰り返し活動することで、有能感をもたせることができる。

③ 発展性

家族団らんを意識して活動し、家族と繰り返しかかわることを通して、家族について考え、子ども自身の生活を見つめ直し、子どもが家族の一員としての役割に気付き有能感をもつとともに、家族と自分というかわりを再確認し再構築していくであろうと期待できる。

4. こんな支援で

「受ける」段階

- 家族の紹介をして家族に関心をもち、自分の1日の生活を振り返ることで、「おしごと大きくせん」をしようという課題1を設定することができるようにする。

- 「おしごと大きくせん」交流会では、発表の場や自己評価カードを工夫することで、発表できたことや、友達及び家族に認められたことが自信となる有能感をもつことができるようにする。

- つなぎの交流では、「おしごと大きくせん」の活動を振り返り、家族からの手紙をもらうことで、家族に評価してもらった喜びが、家族への感謝となり、「なかよし大きくせん」という課題2を設定することができるようにする。

「返す」段階

- 発表する場を工夫し、子どもたちの気付きを共有し広げることで、自分自身のことだけでなく、家族へ目を向け、自分なりの取組ができるようになった有能感をもつことができるようにする。

5. こんな子どもに

- 家族や家庭での生活に関心をもち、自分の生活を振り返り、家族の一員として自分でできることを見つけ、進んで取り組むことができる。【関心・意欲・態度】
- 家庭生活の様子を調べたり、家族のよさや役割や友達の頑張っていたことを考えたりして、家族に対する思いや願いを自分なりの方法で表すことができる。【思考・表現】
- 家族の思いや願いを考え、自分の役割に気付くことができる。【気付き】

6. 学習活動計画（計12時間）

段階	問題解決の学習過程	地域との双方向の関係づくりを成立させる支援	配時
受 け る	<p>1. 家族のいいところを話し合う。 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族にはどんな人がいるか話し合う。 ○ 家族と楽しかったことや病気になって看病してもらったこと等を話し合う。 <p>2. 自分と家族の1日を紹介し話し合う。②</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 家族の1日を紹介し、家族が家庭でしていること（おしごと）を話し合う。 (2) 自分の1日を紹介し、自分一人でしていることと家族がしていることを話し合う。 <p>3. 「おしごと大きくせん」の計画を立てる。 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分でできることを話し合う。 ○ 課題を設定し、計画を立てる。 	<p>※ 保護者に前もって学習内容を知らせ協力をお願いしておく。</p> <p>※ 仕事に関する「生活アンケート①」をとり、子どもの思いを把握し助言することができるようにする。</p> <p>※ 家族にインタビューをする課外の時間を設定し、家庭の仕事に関心をもつことができるようにする。</p> <p>※ 家庭の仕事の表を掲示することで、家族がどれだけしてくれているか気付くことができるようにする。</p> <p>※ 十分に話し合いをし助言することで継続することができるようにする。</p>	<p>1</p> <p>1 + 課外 1</p> <p>A組 本時 (1/1)</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題1 「おしごと大きくせん」をしよう。</p> </div> <p>4. 「おしごと大きくせん」に取り組む。 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 計画カードに書き、実践をする。 (2) 「おしごと大きくせん」お知らせボードを作成する。 <p>5. 「おしごと大きくせん」の取組を発表し、話し合う。 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の取組を発表し、話し合う。 (2) 友だちのまねをしたい、仕事を増やしたいと、さらに意欲をもち実践する。 	<p>※ 「おしごと大きくせん」カードに家族の賞賛のコメントを書いてもらうよう保護者に協力を呼びかける。</p> <p>※ 「おしごと大きくせん」お知らせコーナーを設け、賞賛し合う。</p> <p>※ 取組はさらに1週間程度の期間を設け、有用感・有能感をもつことができるようにする。</p>	<p>1 + 課外 1</p> <p>B組 本時 (1/2) 課外</p>
つ な ぎ の 交 流	<p>(3) これまでの活動を振り返り、次の課題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「おしごと大きくせん」の感想を発表する。 ○ 家族の手紙を読み、新しい課題を話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題2 「なかよし大きくせん」をしよう。</p> </div>	<p>※ これまでの活動を賞賛し合い価値づける。</p> <p>※ 家族からの手紙については、主体的に生活できるようになった成長の喜びや賞賛だけでなく、家族に目を向けて家族団らんの主催もしてほしい旨、事前をお願いしておく。</p>	<p>C組 本時 (2/2)</p>
返 す	<p>6. 「なかよし大きくせん」の計画を立てる。 ①</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) どんなことをしたらいいか話し合う。 (2) 実践する。 <p>7. 「なかよし大きくせん」の取組を発表し、話し合う。 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 実践して思ったことを発表する。 (2) さらに実践し、これからの自分について話し合う。 (3) これまでの学習を振り返り、家族へ手紙を書く。 	<p>※ 「なかよし大きくせん」お知らせコーナーを設け、賞賛し合う。</p> <p>※ 「なかよし大きくせん」カードに家族の賞賛や感想の欄を設け、子どもが家族のために考えてするようになった等の子どもの成長を書いてもらい、価値づけることができるようにする。</p> <p>※ 仕事や団らんに関する評価として、「生活アンケート②」をとる。</p>	<p>1 課外</p> <p>D組 本時 (1/3) 1 1</p>

8. 本時の目標

- 自分たちの取組を振り返り、もっと仕事をやってみようという意欲をもつことができる。

【関心・意欲・態度】

9. 本時指導の考え方

子どもたちは、自分で計画した「おしごと大きくせん」に取り組んできている。しかし、家族の協力や構成の違いにより、子どもたちのそれぞれの取り組み方や意欲には差が見られる。

そこで、本時では、子どもたちが取り組んできた仕事の頑張りを交流し、自分と友達の頑張りや、やり方の違いを見つけることで、仕事への関心や取組への意欲をさらに高めていくことを主なねらいとしている。

本時の導入では、家庭での自分たちの仕事の頑張りを想起させ、それを発表する意欲を高める。また、よく頑張っている子どもの取組を代表の発表として見せることで、自分も発表してみたい、聞いてみたいという気持ちをもたせたい。

グループの交流では、同じ仕事に分かれ、その中で具体的な道具を使って自分の仕事のやり方と頑張りを発表しあう。子どもたちは伝え合う中で、それぞれのやり方の共通点や相違点、友達の頑張りを見つけ ていくと考える。

振り返りでは、自分たちが伝え合う中で見つけた頑張りやほめられたことを発表し合う。その中で、子どもたちは自分の取組に有用感・有能感を感じ、自分の取組をもっと続けてみたいという次の活動への意欲を高めていくことができると考える。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の4点である。

- ① 同じ取組をしている子どもたちでグループを構成することで、仕事の内容を共通・共有のものとしての発表や質問がしやすいようにする。
- ② グループ交流では、具体的な物を使うことで、意欲的に自分の取組を自分なりに表現できるようにする。
- ③ 交流の振り返りでは、友達の頑張りや自分がほめられたことを伝え合うことで、自分たちの取組に有用感・有能感を感じることができるようになる。
- ④ TT体制をとることで、交流やグループなどで、子ども一人一人が活動をより適切に行うことができるようにする。

特別支援学級との交流について

- 特別支援学級E組の担任と連携し、E組の子ども全員（4名）が本学級で交流することができるようにする。

同じ仕事の取組での交流の活動は、本学級とE組の子どもたちがお互いの活躍を認め合えると考 えている。

10. 準備

(教師) 前時までの学習を整理した掲示物

(子ども) 「みんな大すきファイル」、自分の仕事を説明するための具体物や道具、 「こうりゅうカード」(自己評価カード)

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて 「おしごと大きくせん」のはっぴょうをしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事を友達によく分かるように発表しよう。 ○ 友達の発表から、頑張りを見つけよう。 <p>2. グループに分かれ、自分が取り組んだ「おしごと大きくせん」を発表する。</p> <p>(1) 発表のやり方について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 代表の友達の発表を見る。 ○ 発表を見て感想を言う。 <p>(2) 同じ仕事のグループに分かれて発表しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体物を使って取り組んだことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになったこと ・よかったこと ・もっとよくしたいこと ○ 発表した友達に質問や感想を伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・見つけたこと ・頑張っていたこと ・自分もやってみたいこと <p>3. 「おしごと大きくせん」の発表を振り返る。</p> <p>(1) 仕事のことでよかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達のよかったところ <ul style="list-style-type: none"> ・友達の頑張りや工夫 ○ 自分がほめられたこと <ul style="list-style-type: none"> ・家族に教えてもらったやり方 ・自分の頑張り <p>(2) 発表会の感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「こうりゅうカード」に感想を書く。 ○ カードをもとに発表し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・同じ仕事を続けたい ・仕事を工夫したい ・別の仕事に挑戦したい <p>4. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学習への賞賛 ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今日の交流会は、仕事のやり方を上手に発表できましたね。友達の頑張りや自分の頑張りがよく分かってよかったですね。(賞賛) もっと仕事を頑張りたくなりましたね。(価値付け) 次の交流会で頑張りをもっと教えてくださいね。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 関心・意欲・態度</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 取組の頑張りや感想を聞いたり発表したりしながら、自分の取組への意欲を高めることができる。 <p>【評価方法】 発言 自己評価カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家での仕事の内容を掲示しておくことで、これまでの学習を想起できるようにする。 ○ T1, T2は、それぞれ担当のグループを巡回指導し、声かけや手助けをおこない、グループでの活動が適切にできるようにする。 ○ T2(T1)は、友達や自分の頑張り、家族とのかかわりを書いた子どもを賞賛し、発表の意欲をもつことができるようにする。 ○ T1は、これまでの活動を賞賛し、仕事への意欲を高めることができるようにする。

8. 本時の目標

- これまで毎日してきたことを生かして、それぞれの「しごと」を発表することができる。 【表現】
- 友達と伝え合う活動の中でやり方の違いに気付き「もっと上手になりたい」という意欲をもつことができる。 【意欲・態度】

9. 本時指導の考え方

子どもたちは、親や教師と一緒に計画した「おしごと大きくせん」に取り組んできている。しかし、それぞれの子どもの取り組み方や意欲、深まりには差が見られる。

そこで、本時では、子どもたちが取り組んできた仕事の頑張りをB組の子ども達と交流し、自分と友達の頑張りの違いや、やり方の違いを見つけることで、仕事への関心や取組への意欲をさらに高めていくことを主なねらいとしている。

本時の導入では、家庭での自分たちの仕事の頑張りを思い出させ、それを発表し合う交流会への意欲を高める。また、よく頑張っている子どもの取組を代表の発表として見せることで、他の友達のものも聞いてみたいという気持ちをもたせたい。

交流の場では、同じ仕事のグループに分かれ、その中で具体的な道具を使って自分の仕事のやり方と頑張りを発表し合う。(言葉で発表しにくい子どもは絵カードや写真カードを提示する。) 子どもたちは発表の中で、それぞれの共通点や相違点、友達の頑張りを見つけていくと考える。

振り返りでは、自分たちが交流の中で見つけた頑張りのほめられたことを伝え合う。その中で、子どもたちは自分の取組のよさ(有能感)を感じ、もっと上手になりたいという意欲を高めていくことができると考える。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の4点である。

- ① 同じ取組をしている子どもたちでグループを構成することで、発表したり、聞いたりすることができるようにする。
- ② 取組の発表では、できるだけ実際の生活に近い場の設定をし、具体物を使うことで、取組を自分なりに表現できるようにする。
- ③ 交流会の振り返りでは、友達の頑張りのほめられたことを伝え合うことで、自分の取組のよさ(有能感)を感じることができるようにする。
- ④ 発表に行き詰まった子どもには、側で助言したり、絵カードや写真カードを提示することにより、発表することができるようにTT体制をとる。

本学級の子どもたち4名は、全員1年生であるため4月から生活科や図書、体育及び給食の時間、体育会などで他の1年生のクラスと交流を行ってきている。

本単元は「おてつだい(しごと)」という日頃から馴染みのある単元であるため、第1時間目より交流していく。大人数の子どもたちの中で友達の発表を聞くことにより刺激を受け、人前での発表の仕方を学んだり恥ずかしがらずに発表したりできることを望んでいる。

E組担任及び補助の教師は、E組の子どものいるグループで、発言、交流の支援を行う。発表のカードや自己評価カードなどは、E組の子どもたちが使いやすい物を工夫する。

10. 準備

(教師) 前時までの学習を整理した掲示物

(子ども) 「みんな大すきファイル」、自分の仕事を説明するための具体物や道具、自己評価カード

5組 評価規準と支援

	A 児	B 児	C 児	D 児
本時の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組の頑張りや感想を聞いたり，発表したりすることができる。 ○ 自分のやり方と違いがあることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組の頑張りや感想を聞いたり発表したりすることができる。 ○ 自分のやり方と違いがあることが分かり，自分の取組への意欲を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組の頑張りや感想を聞いたり発表したりすることができる。 ○ 自分のやり方と違いがあることが分かり，自分の取組への意欲を少しでも高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取組の頑張りや感想を聞いたり発表したりすることができる。また，質問をすることができる。 ○ 自分のやり方と違いがあることが分かり，自分の取組への意欲を高めることができる。
主な活動への支援	活動2 グループに分かれ，自分が取り組んだ「おしごと大きくせん」を発表する。			
	<p>しごと 毎日，夕飯時に家族みんなのごはんをつぐことをしている。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉では発表しにくいので自分が頑張ったことを選択できる絵カードや写真カードを用意する。そのことで頑張ったことを表現できるようにする。 (T 1) 	<p>しごと 毎日，お風呂そうじをしている。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表マニュアルを作って事前に発表の練習をすることで，みんなの前で緊張せずに発表できるようにする。 (言葉に詰まった場合は側で教える。) (T 2) 	<p>しごと 毎日，お風呂そうじをしている。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表マニュアルを作って事前に練習をし，それを見ながら発表することで，みんなの前で緊張せずに発表できるようにする。 (T 2) 	<p>しごと 毎日，夕食に簡単なおかずを1品作る。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発表マニュアルを作って事前に発表の練習をし，覚えることで，みんなの前で緊張せずに発表できるようにする。 (T 1)
主な活動への支援	活動3 「おしごと大きくせん」発表会を振り返って，気付いたことや思ったことを発表する。			
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のやり方と違う人はだれか，似ている人はだれか，友達の写真カードを準備し，選択することができるようにする。 (T 1) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵カードや写真カードを見せることで友達の頑張りや自分がほめられたことを教師に話すことができるようにする。 ○ 子どもの話を聞き取り，賞賛する。 ○ 賞賛されたことでもっと仕事をしてみようという意欲をもつことができるようにする。 (T 2) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵カードや写真カードを見せることで友達の頑張りや自分がほめられたことを教師に話すことができるようにする。 ○ 子どもの話を聞き取り，賞賛する。 ○ 賞賛されたことでもっと仕事をしてみようという意欲をもつことができるようにする。 (T 2) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵カードや写真カードを見せることで友達の頑張りや自分がほめられたことを教師に話すことができるようにする。 ○ 子どもの話を聞き取り，賞賛する。 ○ 賞賛されたことでもっと仕事をしてみようという意欲をもつことができるようにする。 (T 1)

8. 本時の目標

- 「なかよし大きくせん」を伝え合う活動を通して、家族の一員としての役割を積極的に果たしていることで、よき生活者としての成長の喜びに気付くことができる。【気付き】

9. 本時指導の考え方

子どもたちは、前時までに、受ける活動「おしごと大きくせん」において、自分にできる家庭の仕事をしてきた満足感と、家族からの手紙を読んで、もっと活動したいという意欲をもつことができた。その意欲を、返す活動「なかよし大きくせん」として、家族団らんの活動実践へと進めていった。

子どもたちは、それぞれの家庭において、家族が喜んでくれるためにどんな団らんの場をもてばよいかしっかり考えて実践してきている。その実践は、「お茶を入れて一緒に話をする」、「読み聞かせをする」、「クイズ等お楽しみ会をする」、「一緒に散歩をする」等、多様である。

子どもたちは、みんな大すきファイルに「なかよし大きくせん」はどのようなことを実践したのかや実践しての感想を書いてきている。

本時は、その実践と感想を発表することを通して、家族の一員としての役割を果たしていることや、よき生活者としての自分の成長を自分自身だけでなく家族も喜んでいることに気付かせることがねらいである。

子どもたちは、実践を発表することで友達にも認められて満足感をもつであろう。しかも、この実践を通しての感想をまとめていくことで、家庭はそれぞれであるが、それぞれの家族のあり方や、よさがあることに共感すると思われる。さらに、学習を振り返ることで、始めは、自分のこともできなかった自分が、次第にできるようになり、家族のためにもできるようになった成長の喜びを実感し、有能感をもつであろう。さらに、家族からの感想として評価を得ることで、その成長の喜びは子ども自身だけでなく家族も喜びであるという、家族の一員としての役割を積極的に果たしている、役に立っていると、1年生なりの有用感をもつであろう。それは、家族に目を向けて生活をもう一度見直し、よき生活者として、これからも「おしごと大きくせん」を含めた「なかよし大きくせん」を続けていく意欲につながっていくと考える。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の2点である。

- ① これまでの学習を整理した掲示物を使って学習を振り返ることで、できるようになった成長の喜びを実感できるようにする。
- ② 家族からの感想を読むことで、子ども自身が家族の一員としての役割を果たし、子どもの成長が家族の喜びであると気付くことができるようにする。
保護者には、次の3点を書いていただくようお願いしておく。
 - 「なかよし大きくせん」をしてもらってよかったこと。
 - 家族に目を向けて家族のためにできるようになったこと、子どもが成長したことがとてもうれしいこと。
 - これからも、生活を見直し、自分でできることを増やしてほしいこと。

10. 準備

（教 師）前時までの学習を整理した掲示物、保護者の感想カード

（子ども）「みんな大すきファイル」、自己評価カード

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <p>(1) 前時に家族と一緒に楽しい「なかよし大きくせん」を計画したことを話し合う。</p> <p>(2) 本時めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて 「なかよし大きくせん」はっぴょうかいをしよう。</p> </div> <p>2. 「なかよし大きくせん」の取組を発表する。</p> <p>(1) 自分が取り組んだ「なかよし大きくせん」について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族のみんなにお茶を入れてお話をしたんだよ。みんなにこにこして楽しかったよ。ありがとうって言われてうれしかったよ。やってよかったな。 <p>(2) 友達の発表を聞いて感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族に喜んでもらった。自分たちもうれしい。 ○ 友達がしたことは違っているけれど、家族のためにしようと思ってしている気持ちは同じと思う。 <p>3. これまでの学習を振り返り、家族からの感想を読む。</p> <p>(1) 前時までの学習を整理した掲示物を見て、これまでの学習を振り返り、できるようになったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 始めは自分のことをしてもらってることが多かったのに、今では、家族のために家族団らんの場を主催できるようになった。 <p>(2) 家族からの感想を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「なかよし大きくせん」の感想と家族のためにできるようになった成長の喜びだけでなく、さらによき生活者となるために活動を続けてほしいという、これからの成長への期待。 <p>(3) 読んで思ったことを評価カードに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ おかあさんが喜んでくれてうれしいです。始めの時は、おかあさんに起こしてもらったのに、今は自分のことは自分でできるようになりました。そして、家族みんなのために考えてできるようになりました。これからはしようと思います。 <p>4. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学習への賞賛 ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「なかよし大きくせん」をよく頑張りましたね。(賞賛) 家族がとても喜んでくれたのはよかったですね。みなさんが家族の役にたっていると分かりましたね。家族のために頑張ってよかったですね。(価値付け) これからも「なかよし大きくせん」を続けていきましょう。次は、どのように続けていくか計画を立てましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 気付き</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のがんばりを発表し、家族の一員としての役割を果たしていることや、よき生活者として自分のことができるようになっただけでなく、家族のために団らんの場を設定できるようになった自分の成長に気付くことができる。 <p>【評価方法】 自己評価カード 発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 掲示物を活用することで前時学習を想起することができるようにする。 ○ 発表の仕方や聞き方を掲示し友達の発表と比べようと助言することで、それぞれが家族の一員としての役割を果たすことができた喜びをもつことができるようにする。 ○ これまでの学習を整理した掲示物を見て、始めの自分と今の自分を比べることで、自分の成長の喜びを味わうことができるようにする。 ○ 家族からの感想をじっくり読むことで、有用感・有能感をもつことができるようにする。読むのが苦手な子には、読んであげたり、助言したり、賞賛したりすることで家族の思いに気付くことができるようにする。

8. 本時の目標

- 家の中で、自分にもできる仕事があることに気づき、自分に合った仕事を考え、「おしごと大きくせん」の計画を立てることができる。【思考・表現】

9. 本時指導の考え方

子どもたちは、前時までの学習の中で自分の身近な家族に目を向け、家族にインタビューをしたり、家族と過ごした楽しい体験を友達に紹介したりしてきた。また、自分の1日を調べ、自分が生活していく上で家族がいかに大きなかわりをもっているか考えることができるようになってきている。そして家族は、一人一人がそれぞれ役割をもって生活をしていることにも気付いている。

そこで本時は、自分にも家族の一員としてできる仕事があることに気づき、家族のために自分に合った仕事を考え、「おしごと大きくせん」の計画を立てることをねらいとしている。

本時の導入では、今までに取り組んだ家族と自分の1日調べや家の中の仕事調べをもとに家族が、どんな仕事を、どんな気持ちでしてくれていたかをていねいに想起させることで、家族がいろいろな場面で自分にしてくれていることのおかげで、毎日安心して、気持ちよく過ごすことができていることに気付かせたい。そこで気付いたことをもとにして、「自分も何かできることをして役に立ちたい。」「家族を喜ばせたい。」という意欲を高めるようにする。

次に課題にそって、自分ができそうな仕事を考え、計画を立てるようにする。ここでは、自分の身の回りの簡単な内容の仕事であっても、自分で考えた仕事として評価し、今後の活動への意欲につなげるために賞賛していきたい。なかなか計画を立てられない子どもには、近くの友達とできそうな仕事を出し合わせて、いろいろな仕事を紹介した「いろいろおしごとひょう」の中から自分に合った仕事が見つけれられるよう支援する。さらに、「おしごとけいかくカード」にこれからする活動を書くことで、見通しをもって計画的にできるようにしていきたい。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の3点である。

- ① 自分にできそうな仕事のイメージがわかりやすいように、自分が夏休みにした仕事の写真や絵などを用意しておく。
- ② 仕事の計画を立てやすいように、仕事のやり方や準備する物を示した「いろいろおしごとひょう」を準備しておき、自分の仕事を思いつかない児童や、どんな物が必要か分からない児童の助けとなるようにする。
- ③ グループの中で、自分が決めた仕事を伝え合うことで、自分の選んだ仕事に意欲的に取り組むことができるようにする。

10. 準備

（教 師）前時までの学習を整理した掲示物、「いろいろおしごとひょう」

（子ども）「みんな大すきファイル」、「おしごとけいかくカード」

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時までの活動を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族は家の中でどんな仕事をしているか。 ○ 家族が自分のためにどんなことをしてくれているか。 ○ どんな気持ちでしてくれているか。 <p>2. 自分は家の中でどんな仕事をしているか発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 夏休みにしたお手伝いのこと。 ○ 普段からしているお手伝いのこと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて おうちのなかで、じぶんにもできるしごとをみつけよう。</p> </div> <p>3. 家の中で、自分はどんなことができそうか話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・しんぶんとり ・くつならべ ・カーテンしめ ・くさぬき ・いぬのさんぽ ----- ・せんたくものたたみ・うわぐつあらい ----- ・しょっきのかたづけ ----- ・おふろそうじ ・ちゃわんならべ ・おこめとき ・おとうと、いもうとのせわ</p> <p style="text-align: right;">など</p> </div> <p>4. 家族のためにできる仕事の計画をたてる。</p> <p>(1) 「おしごとけいかくカード」の書き方を知る。</p> <p>(2) 「おしごとけいかくカード」にそって自分の仕事を具体的に書く。</p> <p>(3) グループの中で自分が決めた仕事を伝え合う。</p> <div style="text-align: center; margin: 20px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題 「おしごと大きくせん」をしよう。</p> </div> <p>5. 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学習への価値付け ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今日の学習では、自分にも、何かできる仕事はないか考えて計画を立てることができました。(価値付け) 今日から早速、自分の仕事を毎日忘れずに頑張っておうちの人が喜ぶ顔をいっぱい見つけてきてください。 次の時間には、みんなの仕事の話をたくさん聞かせてくださいね。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 思考・表現</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族のためにできる、自分にあつた仕事を具体的に考え、「おしごとけいかくカード」に書くことができる。 <p>【評価方法】 観察・カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までに学習した内容や夏休みのお手伝いの写真や絵を掲示することで本時のめあてをつかみやすいようにする。 ○ 家族が自分のためにしてくれている仕事やその気持ちを考えたり、友達の発表を聞いたりすることで「自分も何か仕事をしてみたい」という意欲をもたせることができるようにする。 ○ 「家の中のしごと」というより、自分の身の回りのことについての仕事に決めても、認めるようにする。 ○ 仕事を具体的に表現している子どもを賞賛する。 ○ 仕事の内容を話し合う際に、仕事を示した「いろいろおしごとひょう」を用意することで、自分に合った仕事を見つけることができるようにする。

8. 本時の目標

- 「おしごと大きくせん」の活動を通して、自分が家族の一員として役割を果たしていることに気付くことができる。【気付き】

9. 本時指導の考え方

子どもたちは、9月下旬より「みんな大すき」単元に入り、自分にとって最も身近な家族の存在についてあらためて意識している。また、自分の生活を振り返ることによって、自分の生活は家族によって支えられていることにも気付いている。

これらの学習を通して家庭にはたくさんの仕事があり、自分にできる仕事はないか、自分で考え、取り組んできた。

前時では、頑張って取り組んだ仕事をお互いに発表し、交流する中で自分の仕事と比べ、よさや工夫を見つけることができていた。

そこで本時では、①「おしごと大きくせん」をして思ったことを発表すること、②家族からの手紙を読むことにより家族の思いや願いに気付くこと、③家族がもっと喜ぶ計画を考えること、以上の3点を主なねらいとしている。つまり、「受ける」段階の最後の時間である本時は、「返す」段階へ向かって新たな課題意識をもつ、つなぎ目としての役割をもった時間である。

本時の導入においては、前時までの活動を想起しながら「おしごと大きくせん」交流会の様子をビデオや写真によって振り返る。ここで仕事をしたときに家族からほめられたことや、難しかったところなどを発表する。

次に家族からの手紙を読ませることによって、家族の自分への思いを知らせる。この手紙を通して、自分たちがした仕事を家族がこんなに喜んでくれるのなら「もっと何かできることはないだろうか。」という新たな課題をもつことができるようにする。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の3点である。

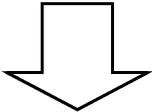
- ① 「おしごと大きくせん」交流会のビデオや写真を見ることにより、仕事をして家族から感謝されたことなどを想起させる。
- ② 保護者に、事前に以下の内容で手紙を書いてもらうように依頼しておく。
 - これまでの活動への賞賛
 - 子どもの成長に対する喜び
 - これからも続けてほしいという思い
 - 次の「なかよし大きくせん」への示唆
- ③ 家族からの手紙を読むことで、自分が家族の一員として役割を果たしていることに気付かせる。

10. 準備

(教師) 前時交流会のビデオ及び写真、保護者からの手紙

(子ども) 「みんな大すきファイル」

11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 前時学習を想起し、本時学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「おしごとだいさくせん」交流会をしたこと ○ 友達がやり方を工夫していたこと <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて 「おしごと大きくせん」をして、おもったことをはっぴょうしよう。</p> </div> <p>2. 「おしごと大きくせん」をして思ったこと、家族に言われたことなどを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日するのは大変だったけど頑張ったよ。おかあさんにほめられてうれしい。やってよかったな。これからも続けるよ。 <p>3. 保護者からの手紙を読み、感想を話し合う。</p> <p>(1) 保護者からの手紙を読む。</p> <p>(2) 手紙を読んだ感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日続けて上手になったね、お兄ちゃんになったねって。ぼくがいて助かるって。時間ができたから、今度は一緒に何かしたいから考えてねって書いてあるよ。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ もっと家族と仲良くしたいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題 「なかよし大きくせん」をしよう。</p> </div> <p>4. 家族みんなが楽しめることを出し合う。</p> <p>(1) 家族と遊んだ経験や一緒によくする遊びを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ クイズ大会 ○ みんなで散歩をする。 <p>(2) 自分の家族に合う楽しみ方を考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゲーム大会 ○ お茶を入れてお話をする。 <p>5. 教師の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの学習への価値付け ○ 次時の学習の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今日は、「おしごと大きくせん」をしたことで家族の人に喜んでもらったことが分かりましたね。(価値付け) 家族が喜んでくれている仕事だから、これからも続けていきましょうね。 次の時間は、「なかよし大きくせん」の計画を立てていきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 気付き</p> <p>【評価規準】 ○ 家族からの手紙を読み、自分に対する家族の思いに気付くことができる。</p> <p>【評価方法】 発言・行動観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時学習を想起しやすくするために、発表や交流場面のビデオを見せたり、写真を掲示したりする。 ○ 「一緒に楽しいことをしたい」という気持ちを表現できている子どもを賞賛する。 ○ 手紙を読んだ時どう思ったのか、どんな気持ちになったのかを聞き、共感・受容する。